

神戸学院大学

まっくらぶの道徳

ホーアイキッズの道徳講座

小中学校における不登校児・児童生徒の数は、いまだ十万人を超えています。学校教育の場における支援活動は、学校内外で行われていますが、家族の問題を反映していることも多い不登校に対して、家族全体を受け止める場や資源は少ないのが現状です。

こういった課題の受け皿として、筆者が関わっている自治体では社会教育の立場から不登校児・児童生徒とそのきょうだいや保護者を対象として、自然体験を主体とした宿泊型プログラムを提供してまいりました。子どもには一対一で学生ボランティアが付き添い、同年代の子ども同士の間関係が築けるように支援します。臨床心理士が全行程に同行することも特徴です。筆者はこ

不登校と子育て



人文学部 難波愛講師

れまで12年にわたって臨床心理士として毎年参加し、支援活動に携わると同時に、本プログラムの効果に関する調査研究を行ってきました。

子育て支援の視点からみると、本プログラムを通して、保護者は自然発生的にピア・サポートを行っていることが分かってきました。同じ立場の保護者と情報交換することで「悩んでいるのは自分だけではない」とホッと胸の荷を下ろし、わが子のキラキラした笑顔を見て「子どもを見る目が変わった」と感じます。そして「元気をもらった」と日常生活に戻って行くのです。臨床心理士はファシリテーターとして参加し、成り行きを見守っていますが、必要に応じて具体的なアドバイスや専門機関を紹介することも連携・協力しながら、子育て支援に取り組んでいます。

宿泊型で家族全体を支援